

第 154 号

Super Highway

春闘速報 3

発行日

2026. 3. 1

J R 東労組バス関東本部

急激な値上げ落ち着くも、高い水準を維持

2026年3月に予定されている商品の値上げは、ここ数年続いた“値上げラッシュ”がようやく落ち着きを見せる局面とはなっています。帝国データバンクの調査では、3月の飲食料品の値上げ品目数は684品目とされ、前年同月比で7割減と大幅に縮小しました。これは3カ月連続で前年を下回る動きで、2022年以降続いてきた急激な値上げの勢いが一服しつつあることを示しています。

値上げの中心となっているのは、切り餅や米飯系冷凍食品、パスタ調理品などの加工食品（304品目）で、次いで果汁飲料や緑茶PET飲料などの酒類・飲料（224品目）、ドレッシング類を中心とした調味料（72品目）が続きます。これらの分野では依然として原材料価格の上昇が大きく影響しており、企業がコスト増を価格に転嫁せざるを得ない状況が続いています。

一方で、値上げ率の平均は14%前後と高い水準を維持しているが、品目数の減少から全体として落ち着いている傾向。単月の値上げ品目数が1,000品目を下回る状態は2025年11月以降5カ月連続で、値上げラッシュが本格化した2022年以降では初めてのこと。

ただし、円安の長期化が輸入コストを押し上げる懸念は依然として残っており、2026年後半にかけて再び値上げ圧力が強まる可能性も指摘されています。家計にとっては、値上げの勢いが弱まったとはいえ、日常的に購入する食品や飲料が中心であるため、負担感は引き続き見通し。特に複数回値上げが行われた商品は別品目としてカウントされているため、実質的な負担増が隠れやすい点にも注意が必要とのことです。

**私たちの生活を維持向上させるためには、
物価上昇分を補うに十分なベースアップが必要！**

J R バス 関東で働く仲間を一つに！